

あみだどう ほうきょういんとう
阿弥陀堂の宝篋印塔（板尾地区）

板尾地区の阿弥陀堂は、安諦あで小学校から西に130mほど坂道を下った場所にあります。板尾という地名は、江戸時代に著された「紀伊続風土記ぞくふどき」によると、古くから木を切り出して板を多く作っていたことに由来すると書かれています。

阿弥陀堂の由来は明らかではありませんが、「紀伊続風土記」には、古くは観音寺と言われていたと記されています。大正時代頃までは、阿弥陀堂で旧正月5日に御田行事が行われていました。詳しいことは明らかではありませんが、江戸時代の『紀伊国名所図会ずえ』には杉野原地区や久野原地区の御田行事とおおかた似たものであると書かれています。

阿弥陀堂の前庭には、五輪塔などの石塔が集められています。写真上の左から3番目の石塔は、町の文化財に指定されている宝篋印塔です。蓮はす



板尾の阿弥陀堂と石塔



宝篋印塔（高さ 87 cm）

の花が彫刻された台座の上にある基礎には、正面に地藏菩薩ぼさつが彫刻されており、その両側には銘文があります。銘文は風化によって読み辛くなっていますが、「今結此衆為」「当来莊嚴基」「明徳三年 壬申みづのえさる」「十一月 敬白」と刻まれています。その意味は「この結衆けっしゅう（仏教的なサークルによる造塔）は、当世とうせい（現世）と来世の莊嚴（仏教的に飾り立てること）のための基礎とするものです」と解釈でき、これからの世の中が良くなるようにという祈りが込められています。当時は、石塔を造ることができる階層はごく限られていることから、この地域を支配していた領主層が建てたものではないかと考えられます。

広報ありだかわに關するおわびと訂正
10月号の当コーナーで、「屋根の原料であるススキ」と記載しましたが、正しくは「屋根の材料であるススキ」です。ここに訂正し、おわび申し上げます。

広告 町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。